

会 議 録					
行 田 市 教 育 委 員 会 令 和 3 年 第 5 回 4 月 臨 時 会					
招集年月日	令和3年4月15日(木)		開会場所	行田市産業文化会館 2A会議室	
開閉の時刻 及び宣言者	開会 4月15日(木) 午後 4時00分		教育長 鈴木トミ江		
	閉会 4月15日(木) 午後 6時00分		教育長 鈴木トミ江		
教育長	鈴木トミ江	教育長職務代理者	岸田昌久	仮議長	
席次番号	出席の教育長 及び委員氏名	摘 要			
1	鈴木 トミ江				
2	岸田 昌久				
3	鹿山 高彦				
4	飯塚 千十世				
5	大澤 恵子				
議 事 参 与 者			書 記		
学校教育部長		吉田 悦生		書記長 長島 浩司	
学校教育部次長				書記次長 上野恵美子	
兼学校教育課長		安藤 秀一		書記 久積 史明	
教育総務課長		長島 浩司			

会議事件名		顛	末
会 議 の 進 行 状 況	協議事項 行田市立須加小学校における複式学級解消について	<p>教育長 本日は、議案1件である。日程を変更し、協議事項を追加してよろしいか。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>議案及び協議事項は公開としてよろしいか。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>教育長提案、書記次長議案朗読</p> <p>教育総務課長 複式学級解消のため行田市立須加小学校の廃止（廃校）後に児童が通学する小学校について協議願う。 ア 行田市立須加小学校の児童は、行田市立桜ヶ丘小学校又は行田市立荒木小学校のどちらかを選択して通学する。 イ 行田市立須加小学校の児童は、行田市立桜ヶ丘小学校に通学する ウ 行田市立須加小学校と行田市立荒木小学校は統合し新校を開校する。行田市立須加小学校の児童は新校に通学する。 これらの協議後、議案を調整する。</p> <p>教育長 何か意見等はあるか。</p> <p>飯塚委員 アについて、もう少し詳細な説明をお願いします。</p> <p>教育総務課長 須加小学校の廃校に伴い保護者意向調査において、桜ヶ丘小と須加小の希望者が同数であったため、1校を指定するのではなく、2つの学校のどちらかを選択してもらい通学するものである。</p> <p>鹿山委員</p>	

<p style="text-align: center;">会 議 の 進 行 状 況</p>		<p>その場合、バスを2台出すということによいか。</p> <p>教育総務課長 これまで、地域でまとまった1つの小学校に、児童の数に合わせて2台のバスを出すことを説明していたが、先ほどの総合教育会議を受けて、桜ヶ丘小と須加小の2つの小学校に対しバスを出すことを検討していくことである。</p> <p>岸田委員 総合教育会議においては、1人でも出すのか出さないのかというところは結論が出ず、下限の線引きを検討することということだったと認識している。</p> <p>教育総務課長 総合教育会議の中で、市長は、例えば1人にバスを出すのは現実的ではない、バスを出す基準は必要ではないかと発言された。子供の通学方法は検討しなくてはならないが、この協議はバスについては言及するものではない。</p> <p>学校教育部長 保護者との説明会の中で、地域の要望として地域でまとまって行くようにしてほしいという意見があり、これまでイトウについて議論してきた。また、選択した結果、多くの児童が通う学校にバスを出すこと、児童数から北河原小学校は1台、須加小学校は2台のバスを出すこと、それ以外の学校を選択した場合は、保護者の責任において登下校するということを説明してきた。その上で意向調査を行っている。</p> <p>アは、意向調査の結果を踏まえ、総合教育会議で出された意見であり、バスについては今後検討する必要があるとされた。</p> <p>飯塚委員 バスの人数の基準は今後検討するということによいか。</p> <p>学校教育部長 アンケートは全員から回答されていない。最終的には全員の意向を確認して今後検討していく。</p>
--	--	--

<p style="text-align: center;">会 議 の 進 行 状 況</p>		<p>鹿山委員</p> <p>バスは2台と決めて、下限は何人だと決めると、アになったとしても希望する人数によってはどちらかのバスが出ないことになる。親の責任で通学させることになる。結果的にはイ、ウと同じにならないか。</p> <p>飯塚委員</p> <p>バスに乗車する人数によって、アと決定しても、イになったり、ウになったりするののか。</p> <p>学校教育部長</p> <p>結果はそうなるかもしれない。アは選択する学校の割合によるもので、イ、ウはこちらで示しているもので確定している。選ぶプロセスが違う。</p> <p>鹿山委員</p> <p>イ、ウとした場合で、別の学校を選択する児童が多い場合、ほとんど乗車されていないバスを出すことになり、それは現実的ではないと思う。</p> <p>岸田委員</p> <p>どういうバスを想定しているのか。</p> <p>教育総務課長</p> <p>マイクロバス2台で、運転手を入れて29人乗りである。</p> <p>岸田委員</p> <p>マイクロバスと限らず、児童が全員乗れるバスにするべきである。</p> <p>教育総務課主幹</p> <p>全員が乗ることを想定し、北河原は1台、須加は2台を予定している。</p> <p>鹿山委員</p> <p>下限を下回るとバスを出さないとするとアとする意味がない。1人でも出すとしないとイ、ウの選択と同じにならないか。</p>
--	--	--

		<p>教育委員会で下限の想定はしているのか。</p> <p>教育総務課長</p> <p>総合教育会議で、市長は15名と下限を例示したが、これまでは、イ、ウを中心にどちらか1校にバスを出すことと協議してきた。アについては、両方にバスを出すことであるので、今後下限を含め検討するものである。</p> <p>岸田委員</p> <p>今後、意向調査をするのであれば、下限も設定し、行う必要がある。</p> <p>大澤委員</p> <p>アと決定するのであれば、市としても応援してほしい。市長は下限の例示もされたが、バスを出すという力強い言葉があった。保護者は通学が一番気がかりの部分であり真っ先に考えることである。予算にかかる部分であるが、これを解消してあげられればと考える。</p> <p>飯塚委員</p> <p>保護者の意向を最優先とすると、意見が半々に分かれている。アのどちらにもいけるとすると地域を分断してほしくないという意見も聞いているし、希望に沿わなくてもみんなと一緒にいくと回答したのが当初のアンケートでは8割だった。そこも重視しなければならないと考える。アとすると分断となる。そのため、時間があれば保護者や地域へもう一度説明することで、それでも半々ならアでもよいと思うし、どちらかにみんなと一緒にいくとなればイかうとなるし、みんなと一緒にいくという部分の現状を確認したい。やはりもう少し時間があれば、説明した方がいい。</p> <p>選択制はありがたいと思うが、市内の各学校は同じ方針で学校運営されているし、安心安全を考えると自宅から近いことは重要だし、養護の先生からも緊急な場合などがあるので、近いほうが望ましいと伺っている。地域と一緒に同じ学校へ行けるのは義務教育の間だけであると考え。</p> <p>岸田委員</p>
--	--	---

17対17とあまりにきれいに分かれており、子供を中心に考えるならば、保護者の意見を大事にすることで、選択肢を用意し、通学も考えますよというのがよい。

鹿山委員

アを選択しておいて、バスの下限を検討、設定し、保護者に提示すれば、そのとき保護者がどちらかを選択するし、もしかしたら地域でまとまることになり、イカウになるかもしれない。また、バスの下限があれば、イ、ウと同じ結果になる。

いろいろ選択肢を用意し、保護者に委ねるのも一つの方法であるのかなと考える。

岸田委員

そもそもこのアンケートが分断を想定しているものと感じた。一つにまとまるのが子供には望ましいという考えなら、A学校にみんなでまとまったほうがよい、賛成か反対かとすればよい。アンケートをとるときはきちんと考えて行うように言ってきた。両校を提示せざるを得ないと感じた。

鹿山委員

アンケートを二者択一ではなく、数直線を取り入れ線上にA B C D E F Gとプロットすれば、「絶対この学校に行きたい」とか「この学校を選択するが、別な学校でもいい」といった保護者の意図がニュアンスまでも確認できたと思う。

岸田委員

学校を選択させ、子供の名前を書かせるというアンケートは重いもので、親は相当の決意であると考ええる。

教育長

教育委員会として、地域でまとまってということは説明してきている。子供は地域で育て、家庭でしつけ、学校で学ぶということで、地域あってこそその学校である。地域においても地域でまとまってという意見であり、保護者においても1回目の意向調査では、どうしてもこの学校に行きたい、まとまった学校に行きたいなどという保護者の意向を確認するもので、8割はまとまった学校に行きたいというものであった。それを踏まえ、

		<p>最後の意向調査を行ったところ、同数になったため、市長も保護者の意見を尊重すべきと意見されたところである。</p> <p>鹿山委員</p> <p>アンケートにおいて、桜ヶ丘小と決めた場合、荒木小とした方がどのくらい移るのか、また荒木小と決めた場合、桜ヶ丘小とした方がどのくらい移るのかということは把握できているのか。</p> <p>教育総務課主幹</p> <p>保護者の意向調査は、今回が2回目であり、1回目を行った際、希望にこだわらず、地域でまとまった学校に変更してもよいが82%だったことを踏まえたものである。2回目の調査は1回目の結果を踏まえ、2つの小学校の内、どちらを希望するかを伺ったものである。</p> <p>鹿山委員</p> <p>8割がまとまってほしい。今回はそれを踏まえてというが、保護者はどちらの学校にまとまりたいのか。そこはでていない。同数であるため、どちらかをここで決めていいのかと考えもある。</p> <p>飯塚委員</p> <p>アンケートには2択しかない。本心はもう一度聞かなくてはわからない。</p> <p>岸田委員</p> <p>アンケートを回答するにあたり、家族と相談、またママ友等と情報交換していると思うが、それでも半々の結果なのである。</p> <p>大澤委員</p> <p>親と子の意見が違っていることも想像できる。遠い学校へ行くなど保護者の心配はつきないが、まとまっていくことに安心感がある。受け入れる側は、先生、保護者、地域が同じ方向に向く必要があるし、成果がこうだったと言えるよう努力する必要がある。分断されることに心配はある。</p>
--	--	--

		<p>飯塚委員 傾向として、下中条の方は桜ヶ丘小が多く、須加の方は荒木が多いとかあるのか。</p> <p>教育総務課長 説明会の中で地域性があるのかなと感じている。</p> <p>飯塚委員 それならば、保護者も本当は近いところを望んでいるのかなと思う。</p> <p>教育長 イ、ウについて何か意見等はあるか。</p> <p>鹿山委員 決定する段階で桜ヶ丘小とした場合、荒木小と書いた方がどのくらい桜ヶ丘小に行くのか。逆も同じである。まとまった学校に行くというのがこのアンケートからは見えない。まとまるのはわかるが、どちらでまとめるかを教育委員会で決めていいのか。実際は逆だったということにならないか。この状況で判断するのは厳しい。</p> <p>飯塚委員 時間があるのであれば、説明するなど、本心を聞きたい。</p> <p>鹿山委員 この状況ならアとし、保護者に委ねることが、保護者の気持ちを踏まえたことにつながる。</p> <p>飯塚委員 アにしておいて、説明をすることで、どちらかにまとめられる可能性があるのではないか。その結果、イやウになることもあるのではないか。</p> <p>鹿山委員 話し合い等、現状を確認できればよいが。</p>
--	--	---

		<p>教育総務課主幹</p> <p>義務教育学校を白紙としたときから話し合いを重ねてきた。教育委員会が説明してきたことは、①令和4年3月に複式学級の解消をする。②保護者の意向を十分に伺い、学校を選択する。③地域のコミュニティを考慮しながら進めていく。の3点である。</p> <p>説明会の中では、保護者からはどちらの学校でもいいから早く決めてほしいという意見やみんなと同じ学校へ通いたいという意向調査の意見がある。</p> <p>岸田委員</p> <p>どちらにしてもいいからというのは、イカウということになるか。</p> <p>教育総務課主幹</p> <p>これまでは、保護者に対しそう説明してきたが、意向調査の結果が同数であったため、総合教育会議での市長の提案を踏まえ、協議案件として、3案を提案したものである。</p> <p>教育長</p> <p>アについては、地域にも保護者にも今まで提示していないものである。</p> <p>鹿山委員</p> <p>地域の方はまとまるのであれば荒木小でも桜ヶ丘小でもよいとの考えであると解釈してよいか。</p> <p>教育総務課長</p> <p>1回目のアンケートではまとまった学校にという意向が82%であったことから、そう考えている。</p> <p>鹿山委員</p> <p>民意の中にはまとまるという意見があるということか。</p> <p>教育総務課長</p> <p>結果、最終的な意向調査ではまとまることのあるのではないかという考えである。</p>
--	--	---

		<p>鹿山委員 そこが大事な部分である。</p> <p>教育長 82%は保護者アンケートであり、地域からは、まずは保護者と子供の意向が一番で、次に教育委員会がイニシアチブをとってほしいとの地域から意見をいただいている。地域がその意見を後押ししてくれると感じている。</p> <p>岸田委員 今も保護者は8割がまとまりたいと考えているのか。仮にまとまるとしたらどちらがいいのかという資料がなく判断が難しい。 この子供の名前を書いたこのアンケートが一番重いと思うし、その結果が半分に割れている。</p> <p>教育長 定刻となるが、会議を続ける。 岸田委員、鹿山委員、飯塚委員はアという考えということか。</p> <p>飯塚委員 アの可能性があるとしていたが、説明会の雰囲気聞き、もし希望にそぐわなくても8割はまとまって行きたいようなので、ウの考えである。</p> <p>教育長 岸田委員と鹿山委員はアということでよいか。</p> <p>岸田委員 この状況では、そうせざるを得ない。</p> <p>鹿山委員 同じである。</p> <p>大澤委員 私は、子供たちは近い学校で、まとまって学校生活を送れること。また地域の学校という環境がよい。地域の分断はどうか</p>
--	--	--

		<p>など思うし、また、バスのこともしっかりしていない。</p> <p>教育長 近いというのはウということではないか。</p> <p>大澤委員 はい。</p> <p>岸田委員 イとウがあるのに、なぜウなのか。</p> <p>飯塚委員 2回目のアンケートではアというような結果であるため、時間があれば、本音はもう一度確認したい。まとまった学校に行きたいという意見が8割あり、保護者と話している事務局もそういう考えのようである。地域の近くで、協力を得る中で地域とともにある学校、共生社会とも言われている。同じ見沼地区の中で共に学んでいくことが理想かなと思っている。</p> <p>鹿山委員 それはもともとだが、それなら市長が話した参考のアンケート結果の21対20で桜ヶ丘小が多いのを考慮すると桜ヶ丘小かなと考える。</p> <p>大澤委員 桜ヶ丘小に決まった場合、受け入れる側は知らされていないという部分に心配もある。一票の差は大きいですが、これまで事務局で進めてきたものも考慮するという数字にあらわれない部分もあると思う。</p> <p>岸田委員 私達としては、アで分かれるということではなく、条件も変わっていることも提示し、保護者にもう1回考えましようと思えないか。これで決まりは酷である。まとまって行く人はまとまるだろうし、どうしても別の学校へ行きたい方もいる。まとまりたくない人の意見も大事にしなければならない。</p>
--	--	--

		<p>鹿山委員 条件もかわってきているのだから、アで分断させるものではなく、もう一度考えてもらえばいい。</p> <p>飯塚委員 アになったら保護者たちといろいろ相談してもらったらいと思うが、保護者に判断してもらうのは酷なのかなと思うところもある。そのため、教育委員会が決めることがいいのかなと考える。</p> <p>岸田委員 北河原小、星宮小もまとまっている。なぜ須加小だけが割れているのか。仮にアにするのなら附帯の意見をつける必要もある。</p> <p>鹿山委員 アと選択してもバスの件をきちんと提示する必要がある。</p> <p>岸田委員 ウとする場合、なんでアンケートをしたのかということにならないか。</p> <p>飯塚委員 同数なのだから教育委員会の判断とするものでないか。</p> <p>教育長 説明会でも教育委員会が判断するといってきた経緯もある。</p> <p>飯塚委員 行きたいところが分かれている。一番の希望は一緒に行きたい。まとめるのを保護者に委ねるのは難しい</p> <p>岸田委員 まとまりたいと言いながら。わかれている。同数でわれているのが疑問点である。</p> <p>飯塚委員</p>
--	--	--

		<p>例えば、ジャージで赤がいい青がいいと半分にわかれても、みんなと同じ色を着たいのであれば、学校が決めればそれを着るという感じになると思う。</p> <p>岸田委員 本当に半分に割れているからそれは難しい。</p> <p>鹿山委員 どちらかに決めて逆の人の反論はないか。</p> <p>飯塚委員 アンケートでは8割以上がまとまりたいとなっている。</p> <p>教育長 意見交換会において、早く学校を決めてほしい。教育委員会がイニシアチブをとってまとめてほしいという意見を聞いている。</p> <p>教育総務課長 これまでは教育委員会はどちらも選べるという話をしていなく、これを示すとまた考えが変わってくると思う。</p> <p>岸田委員 イ、ウに決めたら保護者は動けない立場になる。アならこれから動ける可能性がある。これが決まりだということではないということでしょうか。</p> <p>教育総務課長 方針を決めることであり、地元の説明会で確認する事もできる。これで通学する学校が決まりということではない。</p> <p>岸田委員 例えば、イとした場合、反対もできるのか。</p> <p>教育総務課長 方針を決めるためのものであり、イとした場合も別の学校を希望することもできる。</p>
--	--	--

	<p>岸田委員 その場合、バスは出ない。アとすれば、バスもでる。</p> <p>教育総務課長 バスは今後検討する部分である。</p> <p>鹿山委員 荒木小に決定すると桜ヶ丘小にはバスがでない。桜ヶ丘小に行く保護者は送迎ということになり負担である。</p> <p>教育長 教育大綱や教育ビジョンにおいて、郷土に誇りを持ち未来を切り拓く人材を育むということで、ふるさと学習等を実施している。地域の良さを荒木と須加の子供にはわかってほしいし、学んでほしい。やはり近接ですぐに保護者が駆けつけられることも大事である。地域に学校がなくなることは地域にとって落胆することであるが、近くで一緒に、さらに統合であれば、新しい学校ということで両校が話し合いで築いていくことができる。太田やその他の地域も今後このように続いていくことがいい。</p> <p>地域の人に学び、感謝することも教育の大きな部分の一つである。アでも地域でまとまるかもしれないが、逆に分断する可能性がある。親の選択肢は広がるが、児童は隣接で学んでいくのがよい。</p> <p>見沼地区の義務教育学校は白紙になったが、両校は見沼中学校区で2年間の小中一貫教育の研究を行うほか、交流学习や宿泊学習も合同で実施してきている。</p> <p>北河原小、南河原小も10年前は白紙としたが、それから現在まで、合同の社会科見学や特別支援学級の交流は続いていることから北河原小は南河原小という意向が多かったと思う。</p> <p>須加小はそういう意向はでなかったが、地域とのつながりを考慮し、ウの意見である。ウに決定しても自由選択の部分は残し、また部活等の中学校のことは、今後いろいろ探っていきたい。</p> <p>ウとし、進めさせていただければありがたい。</p> <p>鹿山委員</p>
--	--

	<p>議案第28号 行田市立北河原小学校における複式学級解消について</p>	<p>ウで決めるのはいいが、意向は半々になっている。それでもバスは2台だすのか。</p> <p>教育長 今後考えていく部分である。</p> <p>教育長 アとウが同数のため、教育長においてウとする。 只今、協議した内容について、本日、議案第29号「行田市立須加小学校における複式学級解消について」として、日程に追加し、議題としてよいか。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>教育長提案、書記次長議案朗読</p> <p>教育総務課長 学校の再編成に関し、令和4年3月31日に北河原小学校を廃止し、複式学級の解消のため、北河原小学校の児童は南河原小学校に通学していただくものである。 見沼中学校区における義務教育学校の計画は廃止としたものの北河原小学校の複式学級の解消は急務であり、令和4年4月の実現に向け、令和2年12月に保護者との意見交換を行いました。それ以降も説明会等を重ね、3月に行った意向調査の結果を踏まえ、南河原小学校の編入とするものである。</p> <p>教育長 何か意見等はあるか。</p> <p>【全委員承認】</p>
	<p>議案第29号 行田市立須加小学校における複式学級解消について</p>	<p>教育長提案、書記次長議案朗読</p> <p>教育総務課長 学校の再編成に関し、令和4年3月に須加小学校を廃止し、複式学級解消のため、須加小学校の児童は荒木小学校と須加小学校を統合した新校に通学するものである。</p>

		<p>教育長 何か意見等はあるか。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>教育長 以上で、本日の日程を終了し、臨時会を閉会とする。</p>
--	--	---

その他特に重要と認める事項

以上、顛末を記載して、その発言内容に相違がないことを証するため、ここに署名する。

教育長

委員

委員